

2016. 5. 30

第3回 会津中央病院杯・女流囲碁トーナメント戦見聞記

中嶋 正市

2016 年5月20-21日にわたり、第 3 回会津中央病院杯女流囲碁トーナメント戦が、会津若松の東山温泉で開催された。める碁会から有志 5 名は、この棋戦の前夜祭に参加し、準々決勝戦の対局を観戦する機会を得られた。さらに、対局終了後には大盤解説会で対局内容を触れられた。また、2 日目には、プロ棋士による指導碁を受けられた。以下はトーナメント戦見学に参加した見聞の記録である。

なお、昨年 of 第 2 回の大会時はめる碁会有志 8 名で初参加し、今回は 2 回目の参加になる。大会の概要については、昨年の記録に詳しい。棋戦や関連イベント、我々の行動の日程はほぼ昨年同様である。地元の福島民報はこの棋戦を、前夜祭から地元の盛大なイベントとして報じていた。

★ 5 月 2 0 日 (1 日目)

める碁会有志、橋野、塩沢、小林、舟木、中嶋の 5 名は、上野10:06発東北新幹線やまびこ133号に乗り込み、郡山から磐越西線で会津若松へ着いた。旅館 4 時着までの数時間、バス「あかべい」で、会津観光をした。昨年は鶴ヶ城や戊辰戦争で新政府軍と勇ましく戦い散った中野竹子の像を見てきたが、今回は飯盛山を中心に、白虎隊士の墓や自刃の地を巡った。白虎隊士が果てた地から鶴ヶ城を見て、当時の少年隊士を偲んだ。その後は武家屋敷を外から見て、宿泊旅館の東山温泉・原瀧へは、迎えのバスで 4 時に到着し、温泉にて鋭気を養った。

前夜祭は 6 時から盛大に開催された。最初に、本戦に出場される女流棋士 8 名、金子真季初段、青木喜久代八段、加藤朋子六段、鈴木歩七段、藤沢里菜三段、稲葉かりん初段、王景怡二段、謝 依旻六段が艶やかな着物姿で入場した。出場する棋士にとってはどんな着物を着れるかも楽しみらしい。

最初に、協賛の会津中央病院の恩知会南嘉輝理事長の挨拶があった。この棋戦は東日本大震災復興に向けての思いが棋戦創設へかき立てたと聞き及んでいた。人工知能AIがイセドルに 4 勝 1 敗で勝ったことや、井山の七冠なども触れながら、この棋戦が女流棋士の人生へ大きな励みとなっていることに、意義を感じており、熱戦を期待していると語った。その後、日本棋院、関連自治体首長の挨拶と続いた。その後、乾杯し、地元の自慢の料理が次々と運ばれてきた。

少しして、準決勝戦トーナメントの抽選が行われた。抽選は、シード棋士、予選勝ち抜き上位者の順に行われた。写真 1 は、抽選が終了し、対局者同士が握手している様子である。華やかな中にも闘志が垣間見える。

昨年は出場棋士と十分に話をしたり、写真と一緒に収まってもらう時間が取れたが、おいしい料理に気を取られて、箸を運んでいるうち、チャンスを逸してしまった。写真 2 は、本会顧問で我々にこのツアーを手厚くお世話いただいた青葉かおり四段を囲んでのものである。

最後に、今回の棋戦と関連した行事を支え、ファンへの対応でお世話になった棋士の方々が紹介された。(写真 3)



左より 王会津中央病院杯者、稲葉初段、藤沢三段、青木八段、金子初段、鈴木七段、加藤六段、謝三冠



前列左より 青葉かおり四段、橋野武、小林佑規
後列左より 舟木英雄、塩沢美義、中嶋正市



右より 指導基担当の宮崎龍太郎七段、尾越一郎八段、大盤解説の小林
寛九段、聞き手の矢代久美子六段、棋戦プロデューサーの青葉
かおり四段、他に記録係の方々

★5月21日（2日目）

宿泊した旅館「原瀧」から数百メートルの原瀧別亭・今昔亭に着いた。（写真4）

準々決勝の4局の対局は午前10時から開始された。開始10分位前位から入室し、写真撮影ができた。王会津中央病院杯者、特に謝三冠は4分位前にゆっくりと入室した。



原瀧別亭の今昔亭前にて

観戦は、対局開始後 10 分間ほど許可された。緊張感が漂い、真剣勝負の雰囲気が感じられた。南理事長らが見守る中、中小野田智己日本棋院常務理事の合図で、4 局同時に開始された。それぞれに、記録係がPCにて棋譜作成を行い、時計係はなく、対局者それぞれが押して行われた。我々は、午後には大盤解説会で内容を鑑賞できた。(写真 5)

4 対局の様子は写真 6～9 のように、緊張感みなぎるようで、プロの真剣勝負を堪能できた。

(写真 6) 謝三冠 (左) 対 加藤六段

(写真 7) 鈴木七段 (左) 対 金子初段

(写真 8) 青木八段 (左) 対 藤沢三段

(写真 9) 王会津中央病院杯者 (左) 対 稲葉初段



対局開始直後の様子



6



7



8



9

今回の対局結果とその後については、後日の報道分を含めて以下の通りとなった。1回戦4局が打たれ、前回優勝の王景怡会津中央病院杯者、謝依旻三冠のシード2人と、青木喜久代八段、鈴木歩七段が準決勝進出を決めた。1回戦の対局結果は次の通りである。王会津中央病院杯者（中押し）稲葉かりん初段、青木八段（中押し）藤沢里菜三段、鈴木七段（中押し）金子真季初段、謝三冠（中押し）加藤朋子六段。

本戦2日目は、22日正午から会津若松市東山温泉の「今昔亭」で準決勝2局が打たれ、王会津中央病院杯者－青木八段、謝三冠－鈴木七段の組み合わせで、行われた。謝依旻三冠と青木喜久代八段が決勝進出を決めた。決勝は6月17、18の両日、今昔亭で2日制で行われ、両者とも初優勝を目指す。持ち時間は今回から1時間延びて6時間となる。優勝賞金は700万円。日本棋院の主催、温知会の協賛、関西棋院、福島民報社、囲碁将棋チャンネル、日本棋院県支部連合会の協力で行われた。

その後、ファンは原瀧に戻り、昨夜の前夜祭会場で指導碁を受けた。会場は、福島の日本棋院県支部連合会の方々が、準備に当たられたようである。連合会の方々とは会食の席が近い時など交流でき、お互いの組織の活動の様子に花が咲いた。

以下は、我々の受けた指導碁の様子や結果である。

橋野武（三子）×尾越一郎八段…中押し負け

塩沢美義（三子）×青葉かおり四段…中押し勝ち

小林佑規（四子）×尾越一郎八段…一目負け

中嶋正市（四子）×宮崎龍太郎七段…中押し勝ち

舟木英雄（五子）×宮崎龍太郎七段…中押し勝ち

いずれも熱戦を展開し、終局後の丁寧な指導が受けられ、福島まで遠征しての収穫の多い旅となった。特に、尾越先生は、勝負に厳しく指導には優しい先生でした。南理事長との縁で、こちらに来ていると話していた。宮崎先生は、若い先生で勝負のポイントを中心に解説いただいた。青葉先生は子ども入門教室で小中学生への指導の合間に、指導の機会が得られた。他に、五人の棋士の方々が、指導に当たられていた。午後3時までの間に2局目の指導碁のチャンスも受けられ、満足のいくものであった。



（写真10） 尾越先生が指導している時の様子、小林さんが右から二人目で対局中

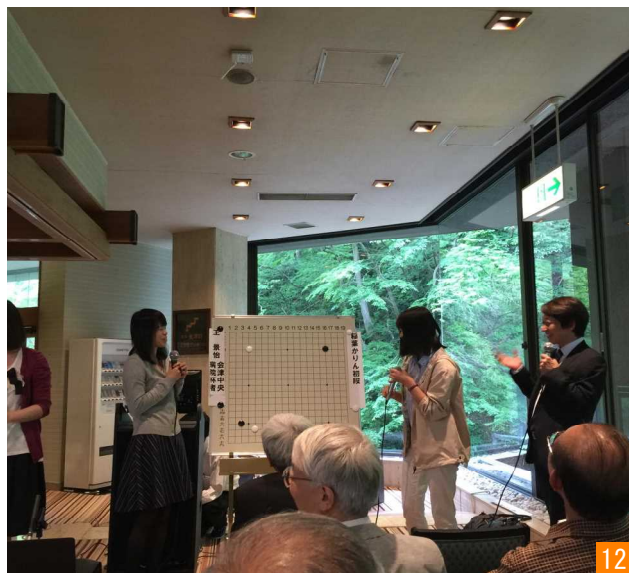
大盤解説会が、午後3時から対局場の原瀧「今昔亭」のロビーにて行われた。それに先立ち、小林寛九段と我々はめる碁会の紹介をしながら懇談し、交流が取れたことは良い思い出になった。(写真11)

大盤解説会は、昨年同様の形式であったが、解説は小林寛九段、聞き手は矢代久美子六段で、4対局について、1局20分ずつ展開された。

写真12～15はその時の様子である。



11



12

王会津中央病院杯者と稲葉初段



13

謝三冠と加藤六段



14

青木八段（左端）と藤沢三段



15

鈴木七段と金子初段

小林寛九段の明快な解説と矢代久美子六段の息の合った掛け合いで、対局者が自分の打った碁を並べ感想を答えるなどの中で、進められた。小林九段の女流の後輩への優しさと励ましの雰囲気の中で、碁の勝負のポイントをずばり指摘するなど、楽しく拝聴でき、勉強になった。

舟木英雄さんは、今回の催しや指導碁等に変な気を良くして、一泊予定より多く滞在し、3日目の22日を出場棋士からの指導碁を含め、堪能したようである。他の4名は、大盤解説会が4時半にて終了したので、タクシーで会津若松駅に直行し、帰途に着いた。

終わりに

本会顧問の青葉かおり先生には、春の懇親碁会を始めお世話いただいているが、先生が中心に運営されている今回の素晴らしい企画に参加でき、収穫の多い旅となった。特に、8人の素晴らしい女流棋士の方々の真剣勝負を間近にできるのは他の棋戦に見られないことであり、多くの棋士の方々と交流を深める機会も十分あり、満足のいく企画であった。この機会を与えていただいたことに、改めて感謝申し上げる次第である。

最後に、青葉先生から頂戴したコメントは以下の通りである。

「める碁会の皆様と会津で一緒できましたこと、嬉しく楽しい思い出となっております。おかげ様で会津中央病院杯が盛り上がり、関係者一同心より感謝しております。来月17日からはいよいよ二日制による決勝戦が行われます。そちらも是非、ご注目ください。」

以上